種の浜

十六日、空霽れたれば、ますほの小貝拾はんと、種の浜に舟を走す。海上七里あり。天屋なにがしといふ者、破籠・小竹筒など細やかにしたためさせ、僕あまた舟に取り乗せて、追ひ風ときの間に吹き着きぬ。

浜は僅かなる海人の小家にて、わびしき法花寺あり。ここに茶を飲み、酒を温めて、夕暮れの寂しさ、感に堪へたり。

寂しさや須磨にかちたる浜の秋
波の間や小貝に混じる萩の塵

その日のあらまし、等栽に筆を取らせて寺に残す。